

## 芸術学部（学士（芸術））の教育課程の編成及び実施に関する方針

芸術学部（学士（芸術））は、卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため、次表に基づき、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
DP1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	芸術に関する豊かな知識と教養を基に、社会に対する倫理観を高めることができる。	CP1 各学科専門科目の理論・歴史部門及び芸術教養科目、体育講義科目等を通じて、芸術に関する豊かな知識・教養を学び、倫理観を高める能力を育成する。
DP2 世界の現状を理解し、説明する力	日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し、その多様性について説明することができる。	CP2 各学科専門科目の理論・歴史部門及び芸術教養科目、外国語科目等を通じて、グローバルな視点を持ち、日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し、その多様性について、芸術の専門家として説明できる能力を育成する。
DP3 論理的・批判的思考力	得られる情報を客観的に捉え、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	CP3 各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて、様々な情報を基に論理的・批判的な思考やプロセスを持つ能力を育成する。
DP4 問題発見・解決力	事象を注意深く観察して、自ら能動的に課題を発見し、芸術表現を通して解決策を提案することができる。	CP4 各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて、世の中の事象を注意深く観察して問題を発見し、芸術表現を通して解決策を提案できる能力を育成する。
DP5 挑戦力	あきらめない気持ちで、芸術分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。	CP5 各学科専門科目の表現技術部門及び体育実技科目等を通じて、あきらめない気持ちで、芸術表現における様々な問題に果敢に挑戦する能力を育成する。
DP6 コミュニケーション力	他者の意見を聴いて、自分と異なる価値観を理解・尊重し、自分の考えを伝え、他者を納得させることができる。	CP6 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを明確に伝え、他者を納得させることができる能力を育成する。
DP7 リーダーシップ・協働力	集団のなかで他者と連携しながら、リーダーシップを発揮することで、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	CP7 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、集団のなかで他者と連携しながら、リーダーシップを発揮することで、協働者の力を引き出し、その活躍を芸術の専門家として支援できる能力を育成する。
DP8 省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高め、芸術表現に活かすことができる。	CP8 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、謙虚に自己を見つめ、振り返ることにより、自己を高め、芸術表現に活かすことができる能力を育成する。